



■発行所/
独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター

■発行責任者/
事務部長 小野寺 正逸

札幌市西区山の手5条7丁目1-1
電話(011)611-8111
FAX(011)611-5820
ホームページアドレス/
<http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>

第3号

2012年4月発行

ごあいさつ

院長 菊地 誠志



平成24年4月1日より宇根良衛前院長の後任として院長を拝命しました菊地誠志でございます。新任のご挨拶と北海道医療センターについてのご説明をさせていただきます。

北海道医療センターは、国立病院機構西札幌病院と国立病院機構札幌南病院が、平成22年3月1日に統合して新しく誕生した病院です。西札幌病院は昭和5年市立札幌療養所として、札幌南病院は昭和18年傷痍軍人北海道第二療養所として創設され、それぞれが長い歴史と特徴をもつ病院でした。

新病院は、「人と自然の健康と調和を大切にす医療を実践します」を基本理念とし、ロゴマークは、病院から間近に見える三角山と北海道をイメージしています。潤いのある自然環境の中、快適な医療施設を目指すということで、グリーンラインは豊かな緑、ブルーラインは発寒川を表しています。2本のラインが組み合わさる構図は、地域と病院、患者さんと病院スタッフの信頼関係を願ってのもです。全病床500床は、一般410床(救急30床)、結核50床、精神40床からなっています。3次救命救急の超急性期から神経難病、小児慢性疾患(養護学校隣接)、結核まで全ての医療ニーズに対応する急性期慢性期ハイブリッド型の病院です。全国的にもまれな機能をもつ病院として、病院の円滑な運営および健全な経営の両面から注目度の高い病院です。

救命救急センターは、救命救急医、循環器科医、脳神経外科医が常時勤務し、24時間365日対応する体制となっています。また、小児科、消化器科、循環器科、呼吸器科、婦人科などの救急にも対応しています。

結核は一般病棟内のモデル病床を入れると90人が収容可能です。神経・筋病棟は、北海道難病ネットワークの基幹病院としての役割を担い、地域の方々はもちろん北海道全域から患者さんを受け入れています。精神科は、身体合併症診療という新たな試みに挑戦しております。精神疾患に罹患されている患者さんの身体疾患(循環器疾患、脳卒中、がんなど)に対し、精神科医師と身体科医師の2人主治医制で診療に当たります。

臨床研究部では、神経筋疾患、免疫異常、成育医療を中心に広く臨床研究を行い、情報発信を活発に行っています。新薬開発のための治験へは、全病院をあげて積極的に参加しています。

人材育成は、当院のもう一つの大切な使命です。初期研修医の受け入れ、後期研修医に対する専門医教育、附属看護学校の運営、各職種における知識・技術向上のための研修会への参加奨励など、未来に向けて、より良質な医療人を輩出するよう努めています。

地域の急性期医療のニーズに答える一方、札幌近郊・北海道をテリトリーとした政策医療(神経難病、精神科身体合併症診療、小児慢性疾患診療、結核医療)を担い、さらには災害医療の拠点としての準備も怠ることのないよう、今後とも職員一同、努力してまいりますので、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

慢性咳嗽と百日咳抗体

内科系診療部長
山本 宏司



呼吸器科外来診療では長引く頑固な咳(慢性咳嗽)を訴えて受診する新患が最も多いのが現状です。慢性咳嗽は、咳が3週間以上持続する場合は“遷延性咳嗽”、8週間以上持続する場合には“慢性咳嗽”と分けることもあります。原因として、肺癌や肺結核などの重大な病気が隠れていることもあります。かぜ症候群後の遷延性咳嗽(かぜに伴う気管支炎が治りきらない)、咳喘息(喘鳴を伴わない喘息)、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などが大部分を占めています。

しかし、近年、成人百日咳が慢性咳嗽の原因として注目され、その頻度は欧米では7～32%、日本では14～23%と報告されています。百日咳は、主として乳幼児が罹患する感染症で、ワクチン接種により乳幼児では激減していますが、ワクチンによる免疫が減弱する思春期以降の成人では再感染することが知られています。また、成人の百日咳では乳幼児で見られる著明なリンパ球増加がないことや典型的な犬吠性咳嗽が見られないことなども診断を困難にしています。

百日咳の確定診断は百日咳菌の分離培養ですが、感染初期に検体を採取しないと検出できず、慢性咳嗽の診断には役に立ちません。そのため、百日咳菌関連抗体を測定することが行われています。抗体検査には百日咳凝集素、抗PT抗体、抗FHA抗体の3つがあります。この中で、百日咳凝集素(山口株、東浜株)は感度が最も低く、また、単回検査での正常値も全く未確定で、あまり役に立たない検査となっています。抗FHA抗体は、百日咳菌が産生するFilamentous Hemagglutinin(FHA)に対する抗体で、百日咳凝集素検査よりは有用ですが、百日咳菌以外のパラ百日咳菌や他の細菌感染でも上昇すると言われていました。抗PT抗体は、百日咳菌の産生する最も重要な毒素であるPertussis Toxin(PT)に対する抗体で、特異性が高いと考えられており、百日咳診断では最も有用な検査となっています。しかし、抗PT抗体と抗FHA抗体の両検査は2008年夏頃から中止となっていたために、最近まで百日咳診断は百日咳凝集素でしか判断できない時期が続いていました。昨年後半頃よりようやく両検査が再開され、当院でも今年に入ってから実施していますが、成人百日咳診断の有用な判断材料となっています。

これらの検査法はいずれも抗体検査であることから、感染初期と慢性期の2回の検査で判断するのが望ましいのですが、慢性咳嗽となってから受診する場合には単回検査の結果で判定しなければなりません。この場合の正常値も確定されておきませんが、感染から3～4週間には抗PT抗体は100EU/ml以上に達するとの報告が見られることから、この値を感染の目安としている施設が多いようです。

成人百日咳は、2007年に四国の大学での200名を越える感染があったように、今後も散発的あるいは集団的に発生すると考えられることから、診断基準の確立、とりわけ単回の抗体検査での正常値の確立が望まれます。

日々雑感

内科系診療部長
岡本 洋



はじめに、この機会に、病院を支えて頂いている地域住民の皆様、連携を頂いている各医療機関の皆様、日夜を問わず診療に邁進して頂いている医療センター職員、その他多くの関係者に感謝申し上げます。

ご存知のように、人口動態や疾病構造が変化し、社会が医療に求めている役割が拡大し、複雑化しています。医療の質も問われており、高度で専門的かつ急性期から慢性期、介護へと続く幅広い総合的な医療が求められています。

例えば、「軽い認知症があり、血圧が高く心房細動があり、脳梗塞後遺症で麻痺やしびれがあり、膝も悪く、白内障を持ち、尿失禁で困っている方が大腸がんになった。悪いことに熱も出て、胸が苦しいと言って救急車で来院した。」心不全かも知れませんし、急性冠症候群あるいは大動脈解離？誤嚥性肺炎あるいは大腸がん転移？あるいは転倒して胸部を骨折？ DPC対象病院では、どの病棟で誰がどのように診療すべきでしょうか。このような例を挙げるまでもなく、専門医とか総合診療医とかの枠組み、入院病棟の垣根を越えて対応が困難なほど医療が複雑化しているため判断が難しい状況も生まれています。一人の人の体に起きている事象ですが、私たちは原発事故と同じように即座の適切な対応を迫られていると言っても過言ではないのかも知れません。医療の世界では100%正しい判断を求めることは非常に困難です。状況も時間とともに変化します。現場にいる人が、目の前の患者さんに対し、枠組みや垣根を取り払い、できることから始め、段階を踏んで少しでもより良い方向を目指すことになります。

言うまでもないことですが、医療は、今、崩壊とも呼ばれる混沌とした状況の中にあります。医療を行う側も受ける側も萎縮・疲弊しがちな状況に陥っています。チーム医療(多職種共同)が問題解決の糸口かも知れません。私の専門領域である心不全を例にとりますと、専門医と専門的訓練を受けたコメディカルがきちんと関わると、再入院率、QOLや生命予後までも改善できることが示されています。退院後の電話による相談・指導だけでも心不全悪化による再入院が減少します。「慢性心不全看護」認定看護師の仕組みもでき、全国で数百人と数は少ないのですが研修が開始されています。循環器専門医、看護師、薬剤師、臨床工学技師、理学療法士、栄養士、検査技師などのチーム医療による包括的ケアは、患者さん・ご家族・介護者に対するアウトカムを向上させることが期待されます。このプロセスには患者さん・ご家族・介護者のヘルス・リテラシーが大きく関わることは言を待ちません。しかし、多職種共同は表面的には聞こえも良いのですが、実現するとなると、とても難しく、リスクも伴います。コミュニケーション・ロスがあると全体の労力が台無しになります。各職種のコミュニケーションが最も大事ですが、責任を転嫁したり、責めたりする姿勢の中では効果的な多職種共同とはならないことだけは容易に想像がつきます。天皇陛下の主治医チームの方からお聞きしましたが、誰が点滴のため静脈に針を刺すかということだけでも、大いに議論が交わされたそうです。最終的に個人の責任を問わない、全体の責任として医療行為を行うということも申し合わされた

そうです。

病院が「質の高い、安全・安心な医療」を行うためには安定した基盤がどうしても必要です。しかし、地域社会や病院を取り巻く様々な関係者から信頼と高い認知優位性を得ることは意図して容易に築けるものではなく、医療スタッフを通じた不断の努力によって紡がれ、徐々に築き上げられ醸成していくものだと考えております。その過程で地域住民、医療機関はじめ関係者の皆様の客観的なご批判がどうしても必要です。地域の信頼なくして病院は存在し得ません。

東北大震災直後、アジアの都市の貧しい地区の子供達が、津波で家を流され家族を失った日本人のためにと募金をする光景がありました。言うまでもないことですが、自分の苦痛より人の苦痛を苦痛として感ずること、医療の原点もそのような「共感」を基礎としています。しかし、決してきれいごとでは済まされない現実もあります。誰でも自分の苦痛は嫌なことですし、家族の経済生活の向上やゆとりを望みます。病院という共同体の中にあっても同様です。吉本隆明という思想家は「共同幻想論」の中で、自己や家族と社会共同体とはそれぞれ別々の運動法則で動いており、共同幻想は自己幻想に必ず逆立するとその関係性を看破しています。必然的に逆立する関係を打ち砕けるとすると、同じ認識を持つ「共感」とそこから生まれる「共同」行動がどうしても必要になります。北海道医療センターが真に人や社会にとってお役に立てる存在になれるかどうか、医療センター全職員の「共感」と「共同」に委ねられています。改めて、地域住民の皆様、各医療機関の皆様、その他多くの関係者にさらなるご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

「 転 任 挨 拶 」

事務部 管理課長
若崎 由



前任地は福島県須賀川市にある国立病院機構福島病院です。この街で昨年3月11日14時46分に東日本大震災を経験し、3月14日の東京電力第一発電所第3号機の水素爆発による放射性物質汚染の怖さを体験しました。福島県人は以前と違う生活を過ごしています。まだ、災害は終わっていません。今もなお苦しんでいる人達がたくさんいることを知ってください。そして福島県人に暖かい支援をして頂きたく、この紙面をお借りして皆様をお願い申し上げます。

話は変わりますが、まだ雪が残る三角山のふもと付近に建てられた北海道医療センターに4月から働くことになりました。まだ、着任2週間目、病院玄関と事務室の間を下を向いて歩く毎日が続いており、建物内を把握するまでにはもう少し時間がかかりそうです。早く、院内で働く皆さんを知り、建物内外のこと知り、だれが訪れても立派にご案内出来るようになりたいと考えております。また、病院に来られる皆様から使い勝手の良い病院と評価していただけるように努力して参りますので、よろしく願いいたします。

「転任挨拶」

看護部 副看護部長
佐々木 奈美子



懐かしい三角山の麓に抱かれた「北海道医療センター(旧西札幌病院)」に9年ぶりに勤務することとなりました、副看護部長の佐々木奈美子です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

出勤時に眺める病院の姿は9年前の装いとはうってかわりました。500床を有する大きなセンターとなった病院は三角山を背にゆったりと構え、「北海道医療センター」の看板が朝日に輝きすがすがしく見えます。反面、このスタッフの一員として役割を果たすことを考えますと、私は緊張の思いです。

新年度の院長挨拶に、『全国で例のみない「ハイブリッド型病院」としての円滑な運営を成し遂げることに挑戦する。そのためには、人への投資を最優先に考え、「ゆとりと誇りを持てる職場環境の実現を目指す。』とありました。

当院にいらっしゃる患者様は、救急車で搬送されてくる方もいらっしゃれば、長年治療を受けられている、顔なじみの患者様もいらっしゃることでしょ。

当院の外来ロビーには広々とした空間が広がります。患者様にとっては決して楽しいはずのない待ち時間を、少しでも豊かに過ごせるようにと設計されたのでしょうか。当院に足を踏み入れて下さった全ての方が、「北海道医療センター」で診てもらって良かったと言って下さるように、ソフト面の環境を整える事が看護部の使命と捕えました。精一杯仕事をさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



ATMをご利用下さい。

売店内に設置しております。

稼働時間 / 7:00~20:00



敷地内全面禁煙について

当院は敷地内禁煙となっておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

職 場 紹 介

2-3病棟

看護師長 川端 香

2-3病棟は「運動器・脳卒中センター」との名称にあるように、身体的機能障害、高次機能障害など疾患や加齢からくる症状をもつ患者様が半数以上を占め、リハビリテーションを必要とする患者さまが多いのが特徴です。診療科としては脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科の5科からなっています。整形外科は大腿骨頸部骨折、外傷性骨折、脳神経外科は脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血など、皮膚科は帯状疱疹、褥瘡、腫瘍性疾患、泌尿器科は前立腺肥大症、腎がん、膀胱癌などが多く、



高度な医療を提供しています。また、リハビリテーションの継続の必要性から、地域連携室、リハビリスタッフとも連携し、スムーズな退院調整を目指しています。また、当該全科とも救急搬送されることが多く、積極的に対応しています。今後も地域との連携を密にしながら安全な看護の提供に努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

手術室

看護師長 佐藤 眞幾子

北海道医療センター開設時、新しい標榜科が増えて、現在、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳血管外科、整形外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、皮膚科、眼科、精神科、小児科、麻酔科の手術を行っています。5室ある手術室は、月曜日から金曜日まで一日平均8~10件、また、大動脈解離やくも膜下出血、外傷等の臨時手術もあり、手術を受けられる方は、小さなお子様からご高齢の方です。そのため、私たち手術室看護師は手術する医師・麻酔科医師と連携を取りながら、手術を受けられる方々の安全に配慮し安心して手術を受けていただけるよう日々努力しています。手術を受けられる前には、手術の流れをお話させていただいたりご質問にお答えし、少しでも不安なく手術に臨まれるようお部屋に伺っております。小さな事でもお聞きになりたいことがございましたら遠慮なく声をおかけ下さい。



医療福祉相談窓口 開設のお知らせ

当院では平成22年3月1日の発足時より地域医療連携室を開設し、様々な活動を通して地域の医療機関等との連携を図り、患者様へ円滑な医療サービスを提供できるよう支援を行ってきました。また、専任の看護師とソーシャルワーカーが様々なご相談をお受けしております。

このたび、患者様への支援をより強化させるため、地域医療連携室に標記の窓口を設置し、新たに場所を移すことで相談窓口を分かりやすくいたしました。

どんなことを相談できるの？

専任の看護師やソーシャルワーカーが、入院に伴って生じる様々なご相談をお受けして、解決へ向けてのお手伝いをいたします。

例えば・・・

「このままじゃ退院が心配。退院後の生活や介護をどうしよう？」

「退院後の治療はどうしたらよいの？近くの医療機関を紹介して欲しい。」

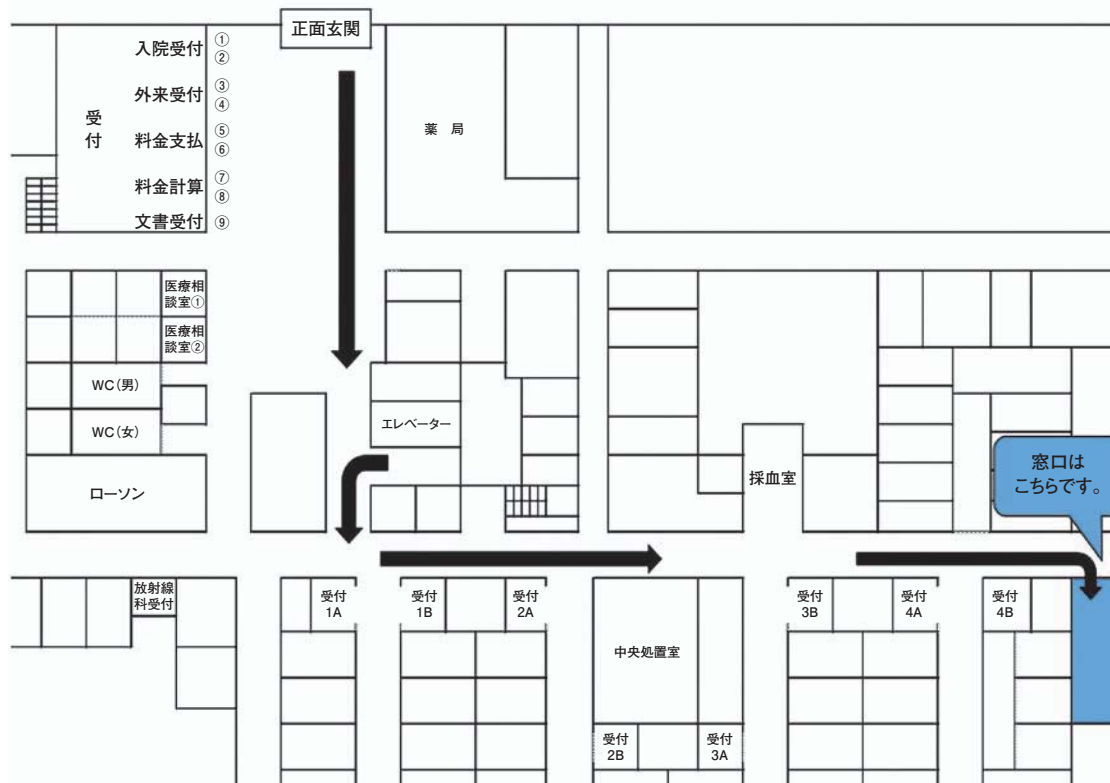
「自宅に帰ることが難しい。転院先や施設を紹介して欲しい。」

「どこに相談して良いか分からないけれど、ちょっと相談したい。」



今後も入院患者様へのサポート充実をより一層図って参りますので、是非ご活用下さい。

<案内図>



看護学校入学式

北海道医療センター附属札幌看護学校 副学校長 小川ひろみ



平成24年4月10日、北海道医療センター附属札幌看護学校体育館にて、第12期生の入学式が執り行なわれました。今年を受験生総数は推薦入学を含み467名であり、5.8倍の難関を突破してきた新入生80名の入学となりました。

菊地学校長と当校英語講師佐藤行敏様から、看護職に寄せられる期待に応えうる看護職者を目指してほしいとの式辞・祝辞の後に、新入生を代表して佐藤晶子さんが「思いやりの心を持ち、人を助ける、誰からも信頼される看護師になりたい。」と力強く述べ、これからの看護学校生活において、努力を積み重ねることを宣誓しました。

12期生は、看護師国家試験受験資格を得るために、これからの3年間で3030時間の教育課程を修得しな

ければなりません。看護学では、妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護や加齢現象により様々な状態にある高齢者の看護、病気や怪我により医療を必要とする人々の看護、そして死に行く人の看取りを学びます。まさに生老病死といわれる人間にとって避けられない四つの苦しみの渦中にいる人に寄り添い、お世話をすることが求められる看護職となるための学習を重ねることになります。

目標に向かって大いに努力してほしいと思っています。

看護職者として育つには、様々な方々のご協力が必要です。特に実習では、指導される方々のみならず、患者さんとご家族の方々のご協力も重要となってきます。どうぞ、看護学生を暖かく受け入れていただきますようこの場を借りてお願い申し上げます。



三角山の紹介

三角山(さんかくやま)は、北海道札幌市西区琴似にある山。

標高311.3mの、小さな山である。角度によっては三角形に見えることから、「三角山」と付けられた。山頂には、一等三角点がある。三角点の名称は「琴似山」となっている。アイヌ語名は、「ハチャムエプイ」。意味は、「発寒の小山」。



編 集 後 記

厳しい寒さは4月に入っても退却を拒み、寒い日々が続きましたが、ようやく春らしくなってきました。

新年度、病院の体制も変わりました。新院長のもとで新しい病院運営に取り組んでいくことが求められています。

先日、4月から新しく当院の職員となられた方々を対象とした研修で90分程時間をいただき、国立病院機構のこと、北海道医療センターのことなどお話をさせていただきました。一生懸命話を聞いてくれた新人職員がいる一方で、朝一番の講義時間にもかかわらず、まぶたが重くなっている新人職員もチラホラ見受けられました。

彼ら彼女らにとって、「ゆとりと誇りをもてる病院」の実現を図るために、職員が一丸となって新たな体制の中で病院改革を進めていかねばと感じた講義でした。

発行責任者 事務部長 小野寺 正逸

**クレジットカード
デビットカードでも、
診療費のお支払いが
できます。**

◎取扱い可能なカード会社

JCB、ビザ、マスター、ダイナースクラブ、
アメリカンエクスプレス、Jデビット加盟銀行

◎支払可能回数…1回、3回以上、リボ払い

◎取り扱い時間…平日・休日（24時間）

※ただしデビットカードについては、発行会社により一部
お取り扱いできない時間帯がございますので、ご了承ください。
その他詳細は、1階医事⑤⑥番料金支払窓口でお尋ねください。

外来担当医師一覧

(平成24年4月1日現在)

【受付時間】午前8:30～11:00 午後1:00～3:00(一部の科のみ)

※土曜午後、日曜、祝日は休診(土曜午前は地域医療機関からの紹介患者さまに限り受付)

国立病院機構 北海道医療センター

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考	
内科	リウマチ科 (膠原病)	午前 午後	市川 —	竹内 市川	市川 —	竹内 市川	市川 竹内	
	呼吸器内科	午前 午後	小倉 中山	山本 —	中山 —	小倉 網島	山本 —	
	呼吸器内科②	午前	鎌田	—	網島	—	鎌田	午前診療のみ
	糖尿病・脂質 代謝内科	午前	中垣 担当医	加藤(雅) 担当医	加藤(雅) 担当医	加藤(雅) 中垣	加藤(雅) 担当医	初診は午前のみ 火・水・金曜日の担当 医はオンコール対応
		午後(再診)	中垣	加藤(雅)	加藤(雅)	加藤(雅)	中垣	
	消化器内科	午前	中原(初診) 大原	木村(初診) 葎内	渡邊(初診) 大原/中原	葎内(初診) 木村	担当医(初診) 渡邊	初診/再診 完全予約制 完全予約制
		午後	大原	—	大原	—	—	
	消化器・アレルギー科	午前	田中(道)	田中(道)	—	田中(道)	—	
	腎臓内科	午前	宮本(再診)	河田(初診)	河田(初診)	山村(初診・再診)	河田(初診)	総合診療科は河田医師(月～金 曜日、午前)で紹介制/腎臓内科 初診と兼任/月曜日午前再診のみ
		午後	—	—	河田(再診)	山村(再診)	—	
	循環器内科	午前	岡本(初診) 野澤/武藤(SAS)	寺西(初診) 井上(仁)	岡本(初診) 寺西	岡本(初診) 小松	竹中(初診) 寺西	初診/再診 再診
			佐藤(不整脈)	乗安	竹中	藤田	武藤	
午後 (予約)		岡本 武藤(SAS)	寺西 井上(仁)	岡本 寺西	岡本 武藤(SAS)	竹中 ペースメーカー外来	竹中	午後は予約制 ※SAS=睡眠時無呼吸症候 群)の専門外来(予約制)
		佐藤(不整脈)	乗安	竹中	藤田	—		
神経内科	午前	藤木 新野	菊地(誠) 土井	南 新野	土井 藤木	南 菊地(誠)	月曜日午後の難病相談 外来は北海道難病医療 ネットワークからの紹介患 者様に限る	
	午後(一般)	田代	藤木	—	—	—		
	午後(専門)	難病相談外来	菊地(パーキンソン外来)	—	—	—		完全予約制
外科	外科	午前	高橋(宏)	蔵谷	伊藤 菊地(健)	植村	梅本(奇数週) 担当医(偶数週)	木曜日午後は完全予約制 第4金曜日はストーマ外来
		午後	高橋(宏)	—	—	植村	第4週・高橋(宏)	
	呼吸器外科	午前	—	—	大坂	—	井上(玲)	午前診療のみ
	心臓血管外科	午前	—	石橋(初診) 川崎	—	石橋(初診) 森本	—	
		午後	—	—	—	—	—	
	整形外科	午前	新納 宮城	宮城	高橋(土) 新納	高橋(土)	宮城 新納	初診/再診 再診
		午後	—	—	高橋(土)	—	—	
リハビリテーション科	午前	高橋(土)	—	—	—	—	午前診療のみ	
脳神経外科	午前	安喰	安田	担当医	牛越	担当医	水・金曜日の担当医は初診のみ 木曜日午後は専門外来 【完全予約制、初診は紹介のみ】	
	午後	—	—	—	牛越(脳血管内治療外来)	—		
小児科	午前(一般)	荒木	長尾	長尾	荒木	田中(藤)	完全予約制	
	午前(専門)	長尾(神経・成長発達)	荒木(腎臓)	荒木(腎臓、偶数週) 田中(藤)(遺伝・代謝・ 遺伝カウンセリング 奇数週)	長尾(遺伝・代謝・ 遺伝カウンセリング)	長尾(アレルギー)		
	午後(紹介 ・予約制)	田中(藤)	森井	荒木	長尾	田中(藤)		
	午後(専門)	荒木(腎臓)	田中(藤)(遺伝・ 代謝・遺伝カウンセリング)	若井(脳波・神経、第1・2・3週) 荒木(腎臓)	森井(小児保健)	荒木(腎臓)		
泌尿器科	午前	第2・4月曜のみ 笹村/清水	笹村 —	清水 —	笹村 —	清水 —	午前診療のみ 午後は検査・手術	
婦人科	午前 午後	齋藤/河井 —	大隅 —	齋藤 齋藤	女性医師外来 10:00～14:00	河井 河井/大隅	木曜日は女性医師による診察 午後完全予約制	
皮膚科	午前	廣崎 塚本	塚本 —	廣崎 塚本	廣崎 塚本	廣崎 塚本	午前診療のみ	
耳鼻咽喉科	午前 午後	鈴木/前田 鈴木/前田	担当医 —	— —	鈴木/前田 —	鈴木/前田 —	火曜日完全予約 制	
眼科	午前	中村/金(ジ)	中村/金(ジ)	中村	中村/金(ジ)	中村/金(ジ)	午前診療のみ	
精神科	午前	担当医(初診) —	松永(初診) 岩田(再診)	岩田(初診) 神(再診)	担当医(初診) 松永(再診)	神(初診) 担当医(再診)	当院入院中の方 のみ	

※都合により、代診・休診となる場合がございますので、事前にお電話にてご確認願います。(代表 011-611-8111)